＜今朝の聖書から＞

村上定幸

【しかしマリアは】今朝はクリスマス礼拝です。2:19 に“しかし、マリアはこれらの出来事をすべて心に納めて、思い巡らしていた”とあるところに、特に注意してみましょう。今朝の箇所の中で他にマリアに焦点を当てて記されている所がないからです。まず“しかし”とあるのは、なにに対して“しかし”なのでしょうか。すぐ前にある“不思議に思った”でよいでしょう。マリアは不思議に思うとか思わないとか、そのような判断はしないで。ただ、心の中で思いめぐらせていました。おそらく生涯そうだったに違いありません。思いめぐらすのですから、そこに行動や批評は伴いません。そしてこの先ずっとマリアは、心の中で“いったいこれは何のことだろう”と思いめぐらす経験をすることになったのです。

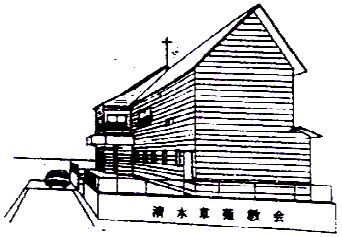
【地に平和が御心にかなう人に】これは、14節の言葉ですが、天の軍勢が、高い所で歌っているのではなく、人々の近くに寄ってきて語ってくれた言葉です。“高きに神の栄光”に対しての“地”です。このように神の栄光が、“御心にかなう人々に示され、約束された”出来事がクリスマスです。地の平和を勝ち取るという理解と反対の理解がここではなされています。それでは、平和を放棄していることになると思えるかもしれませんが、勝ち取るという言葉を使うとしたら、信仰者の群れによる力によるのです。

【沈黙するマリア】このようなマリアの神の前での沈黙を、私たちも大切にしたいものです。クリスマスは忙しいもの、祝会はどうしようとか、スケジュールに欠けた所があったらどうしようとか、などと考える忙しい時ではなく、全く沈黙する時と考えていいようにも思えます。雄弁に多弁になるのではなく、私のところに、避けがたい力としてやってくる神の言葉に聞くのです。聞くのですから沈黙せざるを得ません。そして心に留めておくのです。マリアのようにそうするのも素晴らしい過ごし方なのです。そこでは分からないことに直面するかもしれません。しかし、いろいろの出来事を心に思い浮かべて神の言葉を綴り合わせていくとき、いよいよ神の救いが私たちに与えられたことに気づくかもしれません。“与えられる”ですから、ここで私たちは受け身なのです。それは聖餐式に似ています。私たちのメソジスト教会では、前に“恵みの座”というところがあって、そこに進み出て、主の前に進み出て、パンと葡萄酒に与るようにしている所が多いようです。私の母教会もそうでした。“進み出て”食事に与るのです。そうでない教会は、勧士と呼ばれる人たちが、ベンチをめぐって、配って行くところが多いようです。草薙教会は人数が少ないので、牧師が直接配るということになっています。陪餐会員は、そこで待っていて、やって来るものを頂くということになると思います。そして“とって食べよ”という指示に従うのです。この間も沈黙しているのです。座って沈黙しているということになります。マリヤも身の回りに起こる全てのことに、聞き続けた人でした。

【慰めを得る】またクリスマスは、大きな慰めを得る時でもあります。それは毎日の過ごし方を神から与えられる時です。“わたしは柔和で謙遜な者だから、わたしの軛を負い、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたは安らぎを得られる。わたしの軛は負いやすく(マタイ 11:29)”と、なすべき務めを、混沌の中から指示してくださる、日々の力の基となる慰めを得る時なのです。

週　報

２０１１年　１２月　２５日



伝えよう　救い主を
迎えよう　主の民を

日本フリーメソジスト

清水草薙キリスト教会

牧師　　村上　定幸

ユース礼拝	毎日曜日	午前　9：00
礼拝式	毎日曜日	午前 10：30
	（聖餐式　第一日曜日）	
夕礼拝式	毎日曜日	午後　7：00
エステルの会	毎水曜日	午前 10：30
聖書研究祈祷会	毎水曜日	午後　7：00

ホームページ　http://kusanagi.church.jp/

〒424-0885
静岡市清水区草薙杉道３丁目２－２６
☎054-345-4070　E-Mail grace@big.jp
振替口座　00890-6-214042